

地域情報誌  
2016年10月  
(No29)

# DE すがね

〈編集・発行〉生きがいのある須金をつくる会

## なしぶどう祭、今年も盛大に開催！



(たくさんの人で賑わう会場内)



(須磨小児童による雲海太鼓)



(今年も美味しいものがいっぱい)



(恒例の大抽選会)

8月27日(土)、今年も恒例のなしぶどう祭が盛大に開催されました。昨年は残念ながら雨のなかの開催となってしまいましたが、今年はお天気にも恵まれ、たくさんの来場者で場内は大にぎわい。

みなさん、なしやぶどうを買われたり、美味しいものを頬張ったり、キッズダンスやライブに歓声をあげたりと、それぞれがこの一大イベントを堪能されていました。また、今年も地元有志によるカラオケ大会も開催。みなさん、自慢の歌声を披露されていました。来年は、外部からの飛び入り参加もOKとのこと?! 「我こそは」の、のど自慢集まれ~。

毎年、たくさんの人を魅了する須金の宝物「なし・ぶどう」、これからも豊かな自然の恵みに感謝して、このお祭りがいつまでも続きますようにと願うのでした。

(文/須田 浩史)

## 須金 人物紹介

五郎丸 節雄さん  
(中原)



(ご自身の作品と一緒に)

**須金出身の陶芸家で、五峰窯(ごっぽうがま)の窯元である五郎丸さんにお話を聞いてきました。**

### Q.まずは経歴を教えてくださいか？

須金の中原生まれで、中学校まで須金で暮らしていました。高校に進学してからは各地を回りましたが、今は須金の実家があった場所に工房を造り、須々万から通いながら作業をしています。

### Q.陶芸との出会いなどを教えてくださいか？

昭和53年から友人の誘いで公民館の陶芸教室に通い始め、約40年近くにわたり作陶をしてきました。10年は指導者もなく、次の20年は萩焼の先生に師事し作陶に取り組んでいましたが、自分の作風を模索するようになり、大田原自然の家の穴窯作りのボランティアに参加したことをきっかけに、自作の穴窯作りに着手しました。平成17年から3年かけて色々な人に聞きながら穴窯を築造しました。その頃は仕事もしながらで、土日の作業でしたが、とてもおもしろくて、5年計画が前倒しで完成しました。

### Q.これまで苦労されたところは？

窯焚きは最低でも1週間は行うので、1人ではできません。また燃料の松の確保も大変です。しかし、須金の皆さんが手伝ってくれたり、松の木をくださったり、色々とお助けしてくれます。須金に窯をつくって良かったと思っています。

### Q.五郎丸さんの作品、陶芸の魅力について教えてくださいか？

窯を開けてみるまでどんな作品になるか分からないところが魅力(自然釉は薪の灰が作品にかかり模様をつくるので、炎次第になるそうです)で、窯を開けるときはドキドキワクワクします。でも出したら半分はがっかり……。300点近く窯に入るけど、作品になるのは半分なんです。これまで9回焚いてきましたが、炎の調整が多少できる様になったかな、というところで、まだまだ挑戦です。

### Q.五郎丸さんの所で陶芸を習いたい人はどうすればよいですか？

毎週水曜・土曜日 9時半から陶芸教室を開催しています。(原則3時間)

月額：5,000円 連絡先：080-1908-0729

永源山公園の中にある周南市郷土美術資料館にて「五郎丸節雄作陶展～自然釉の魅力～」が11月13日(日)まで開催中です。皆さんよろしくお祈いします!! (文/三牧 清隆)

## 大津島地区・須金地区交流会が開催されました

9月26日に大津島との秋季交流会が開催されました。35回目となる今回も、梨狩りを楽しんで頂き、懇親会を開催して親睦を深めました。また会えたことを喜びあいながら、今回参加できなかった方の近況をお聞きしたり、カラオケや踊りを披露したり、和やかな時間が過ごせました。

春は大津島のお祭りに参加させていただきます。またみんなで元気に会いに行きましょう。  
(文/三牧清隆)



(みんなで記念撮影)



(梨狩りの様子)

## 北部コミュニティ関係者による協議会・懇親会が開催されました

北部8地区の首脳会談。ふるさと振興財団からも参加を頂き、35名もの方が須金に集まって協議の場を持つことができました。昨年度須々万地区が策定された夢プランについて発表をして頂き、その後意見交換をしました。須々万の地域拠点化や、地域間の連携について意見が出されました。須々万の発展は周辺地域の発展につながります。逆に須々万が不便になることで問題が起きるのは、地元よりも周辺地域だと認識するべきです。懇親会でもつながりを深めました。今後より一層の連携が期待できます。

(文：三牧 清隆)



(協議の様子)



(今後の連携に期待してガンバロー！)

## 須金地区主な行事予定

### 10月

- 10月 2日（日） それ一ねの日
- 10月 8日（土） 運動会前日準備
- 10月 9日（日） 須金地区小学校  
・市民合同運動会
- 10月 11日（日） コミュニティ理事会
- 10月 15日（土） やまびこ号
- 10月 16日（日） 亀山八幡宮秋季大会
- 10月 23日（日） 自然の学校  
地形図の読図講座
- 10月 25日（火） ～27日（木）  
東京都清瀬高校民泊
- 10月 27日（木） やまびこ号

### 11月

- 11月 1日（火） やまびこ号
- 11月 6日（日） もみじパーク下刈り  
それ一ねの日
- 11月 7日（月） コミュニティ理事会
- 11月 13日（日） ふれあい文化祭  
・地域参観日
- 11月 15日（火） やまびこ号
- 11月 19日（土） ～20（日） 移住定住ツアー
- 11月 20日（日） 防災訓練
- 11月 21日（月） 高齢者振興大会

### ※DE すがね無料メール配信

メールでもこの情報誌は読めます！申し込み方法は desugane@gmail.comへ配信希望と書いたメールをすただけ。励ましや感想もこのメールアドレスで受け付けています。

須金で育って、いま全国でがんばっている皆さんの元へ届けましょう！

### 編集後記

彼岸花が綺麗に咲き、秋が深まっていくのを感じます。里山の景色は日々変わって飽きさせることなく、目を楽しませてくれますね。

食欲の秋・読書の秋・芸術の秋、秋は意欲が高まるのはなぜでしょう。そして、3日坊主になるのはなぜでしょう…（三牧 清隆）



## 特別連載 須金歴史探訪

### 須金の生い立ち（2）飛鳥～奈良時代

文 高橋 勝己

前回の角宿禰が国造になり、この地域一帯を治める以前に、中原地区は五郎丸一族により、兼田地区は金子一族により開発されたと言われているが定かではありません。（伝承）

和銅3年（710年）に、亀山八幡宮が長渡路末広の峯宮ノ原に建てられ、同7年（715年）には権代、貞森、文屋らが菅蔵、大久保地域の開墾に着手し、神亀5年（728年）に金峯神社玉相院を菅蔵に建てました。金峰（ミタケ）の地名は、このころから言われるようになりました。その後、天平勝宝2年（749年）には蓮花寺が一升谷に建立されます。錦川をはさみ長渡路、一升谷と兼田、中原地域がまず開発され、時をほぼ同じくして、菅蔵地域が開発されたのでした。

和銅3年（710年）の日本は、藤原京から平城京に都が移された年で、その後の84年間を奈良時代と呼ばれていました。この頃より須金地域（当時は紀の国）に自然や祖先に対する信仰が盛んになり始め、文化が芽生えてきたのでした。なんと、今から1300年以上前から、須金の歴史は始まるのです。

<次回につづく>



（北山から金峰山を望む）